

目次

1 事例報告 復学支援の例

### 1. 事例報告 復学支援の例



交通事故に遭い、高次脳機能障がいが残った A さん。学校に戻ることを考えると不安なことがたくさん浮かびました。そこで病院スタッフは、以下のような支援を行っていました。

#### 『しばらく休んでしまったけど、勉強についていけるか不安だなあ。』

- 学校の先生や家族にもととの学習状況を確認しながら、個別指導や補修の体制をとって貰えるかなど、学校側と話し合いを進めました。
- 教室での座席も、授業に集中できるように前に移してもらうなど、学校側への提案を行いました。

#### 『友だちにどう思われるのか心配だよ。』

- 病院スタッフが学校に出向き、手伝って欲しいことや困りそうなことをクラスメイトに伝える場を設けました。



#### 『疲れたときには休んでもいいのかなあ。』

- まだ疲れやすさが残ることを病院スタッフから学校側に説明し、授業に集中できなくなったり、休息が必要なときには、保健室で体を休めることにしました。

#### 『学校に戻ってから困った事があっても、病院には相談できないの？』

- 復学後も、本人・家族・医療機関・学校との情報交換の場を定期的に設定しました。学校生活を問題なく送れることが確認できたら、徐々にカンファレンスの頻度を減らしていくことにしました。

#### 『家で困ったことが出てきたらどうしたらいいの？(家族の思い)』

- 学校や医療機関だけではサポートが十分にできない場合もあります。家族会で同じ悩みを持つ人たちと交流の機会を確保したり、高次脳機能障がいに関する相談窓口の紹介を行いました。



今年の干支は

「酉（とり）」ですね！  
とりのように羽ばたく  
1年にするぞ！！



【Aさんの現在】Aさんは、毎日学校に通っています。お友だちとは楽しく過ごせていますが、もっと部活動に積極的に取り組みたいという気持ちが強くなってきました。今後は部活動の状況も踏まえながら、支援を継続していく予定です。

復学支援は、学童期・思春期の成長過程における子どもの変化と、高次脳機能障がいによる影響をあわせて考えていく必要があります。支援機関は、それぞれの立場から情報交換を行い、本人にとってより良い学校生活を送れるよう、協力して支援していくことが重要です。

